

Japanese Utility Model Laid-Open Publication No. 63-36389

Laid-Open Date: March 9, 1988

Japanese Utility Model Application No. 61-129646

Filing Date : August 25, 1986

Inventor : Fujio Kushi

Applicant: Fujio Kushi

### **PACKING AND CONTAINING BOX OF TISSUE PAPER**

As shown in Fig. 2, (2) is broken and removed in a strip shape from a top surface of a box to a front surface along perforation (1) shown in Fig. 1. A number of sheets of tissue paper (5) that are cut in a rectangular shape are horizontally stacked inside the box. Since a bridge (4) is provided in the top surface of the box, it is hard for side faces of the box to open to the side, thus preventing the tissue paper from falling. Numeral reference (3) denotes a hole for a hook used for hanging the box.

# 公開実用 昭和63- 36389

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭63- 36389

⑬ Int. Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和63年(1988)3月9日

A 47 K 10/20  
B 65 D 83/08

6654-2D  
A-7912-3E

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 テリ紙包装兼使用容器

⑯ 実 願 昭61-129646

⑰ 出 願 昭61(1986)8月25日

⑱ 考 案 者 久 志 富 士 男 長崎県佐世保市原分町55番地

⑲ 出 願 人 久 志 富 士 男 長崎県佐世保市原分町55番地

明 細 書

1. 考案の名称

チリ紙包装兼使用容器

2. 実用新案登録請求の範囲

縦長の立方体で上面の半ばより正面の最下部にかけて平行な2本のミシン線を設け、そのミシン線にそって帯状に破り開けるようにし、上面の間位に両側面をつなぐブリッジを設けたチリ紙包装兼使用容器。

3. 考案の詳細な説明

産業上の利用分野

家庭用品としてのトイレットペーパー。

従来の技術

従来、トイレットペーパーはロールペーパーが主流である。

考案が解決しようとする問題点

ロールペーパーは使用に際して、いちいち適当な長さに切り、折らねはならず、特に子供にとっては使いづらい。それに一巻きの分量に制限があり、補給の頻度が多い。更に最初のホルダーの取付けが、特にタイル壁には面倒である。

問題点を解決するための手段

本考案は四角形チリ紙の包装用容器であるが、トイレットの壁に吊して、そのまま使用容器として使えるようにしたものである。

本考案は実願昭59-54578・実用新案出願公開昭60-167787の改良考案である。

第1図の(4)を上記の考案の上面に設けたものである。上記の考案だと薄い材料で作製した場合、強度不足で、側面が左右に開いて、内容物であるチリ紙が外にとび出して落下し易い。それを防ぐためにブリッジ(4)を設けたのである。

### 作 用

第1図のミシン線(1)にそって、第2図のように上面から正面にかけて(2)を帯状に破り取る。内部には四角形に切りそろえたチリ紙(5)が水平に重ねて入れてある。上面にはブリッジ(4)があるので、側面が左右に開きにくく、チリ紙が落ちない。(3)は吊り下げ用フック穴である。

### 実 施 例

上面のサイズは約7 cm×7.2 cmが適切であろう。  
。高さは30 cm。

### 考案の効果

使い勝手がよい。上から適当な枚数をとればよい。適当な枚数ごとに二つ折りにして入れてあると更に使い易い。高さを30センチ位に作製するとロールペーパーの4、5本の分量になり、補給頻度がそれだけ少なくてすむ。使い捨てなので、清潔である。吊り下用フックは市販の粘着式のもの  
をタイル壁に張りつけて使用出来る。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案の斜視図。

第2図は使用に際して、正面を破り開けているところである。

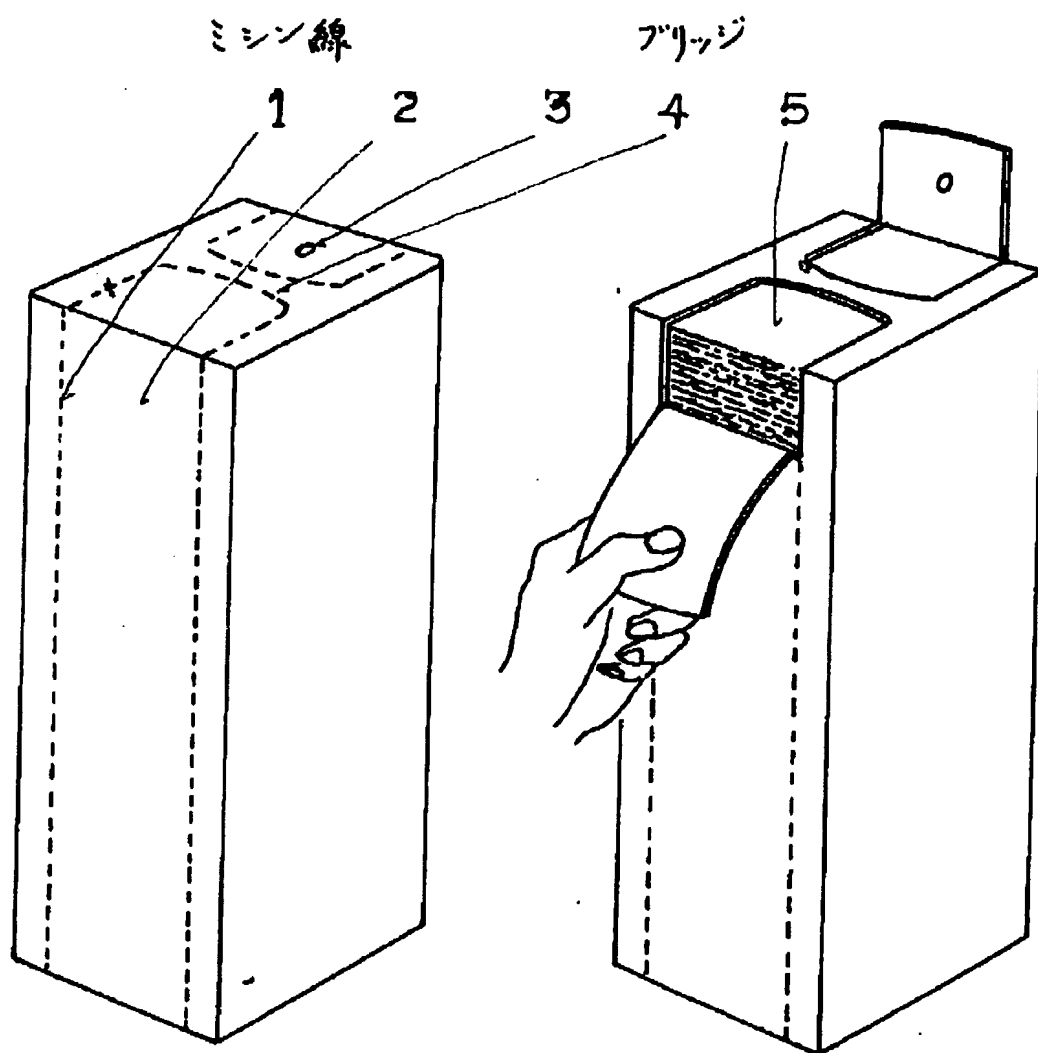


図 1

図 2

実用新案登録出願人

久志富士男

950  
実開 63-36389